

インフォメーション



日本蜘蛛学会
第 39 回大会
(熊本県南阿蘇村)

本年度の日本蜘蛛学会大会・総会は、下記の日程で熊本県阿蘇郡南阿蘇村の九州東海大学農学部阿蘇キャンパスで開催されることになりました。本年度は、通常の大会・総会の前日にキムラグモの観察会を開催する予定です。また、一般市民向けのシンポジウムも計画中です。

1. 日程：2007年8月24日(金)～26日(日)

24日 15:30～ キムラグモ観察会

25日 10:00～ 一般講演

13:00～14:00 総会

14:00～17:00 シンポジウム

18:30～ 懇親会

26日 9:30～12:00 一般講演

2. 会場

九州東海大学農学部阿蘇キャンパス

熊本県阿蘇郡南阿蘇村河陽

3. 宿舎

別送の大会案内参照

4. 参加費用

大会費 検討中

懇親会費 検討中

(九州東海大学農学部 村田浩平)

日本蜘蛛学会奨励賞

今回は奨励賞候補の推薦がなかったので、「該当者なし」ということになりました。

(会長 鶴崎展巨)



同好会情報

ここでは日本各地にあるクモ同好会で発行されている定期行物の内容、採集会や講演会(総会・例会)の日程などを紹介する。興味を持たれた方は入会したり、行事に参加されてはいかがでしょうか。

和歌山クモの会(会長:米田 宏)

会報「和歌山クモの会会報」を年1回発行。総会・観察会を年1回実施。

総会・観察会は2007年9月頃に予定。詳細は後日、会員諸氏に連絡します。

和歌山クモの会会報 No.14(2004.9.17発行)以降の発行はありません。

内容は、遊絲15号を参照のこと。会報15号の発行は未定です。

入会申し込み

〒649-6264 和歌山市西浜465-3

第2小杉マンション1-A

青木敏郎(事務局)

Tel 090-1072-4414 会費 年1000円

東京蜘蛛談話会（会長：新海栄一）

会報「KISHIDAIA」を年2回、「談話会通信」
を年3回発行・採集会年4回・
合宿年1回・総会例会などを年2回実施。

今年度の採集会は、神奈川県横浜市都筑区「中
中央公園」で実施します。

2007年 7月8日（日）

10月14日（日）

2008年 2月3日（日）

横浜市営地下鉄センター南駅改札口 午前
10時30分集合。

世話人 萩本房枝

公園内では談話会の会員であることを示す名
札が必要です。集合時間に遅れた方は
090-6319-0603(萩本)まで連絡して下さい。

合宿は東京都奥多摩地方で行ないます。

期日：2007年7月21日（土）～23日（月）

宿泊：東京都奥多摩町氷川 1765 奥多摩温
泉郷 観光荘 Tel 0428-83-2122

費用：1泊3食 10000円×泊数(保険等込み)

この他にバス代 2000円

申し込み締め切り：6月10日

申し込み、問い合わせ先：国立市東 3-11-



2006年10月の採集会参加者一同

18 有限会社 エコス 初芝伸吾

Tel 042-501-2651

Fax 042-501-2652

E-mail:hatsushiba-ecosys@h8.dion.ne.jp

例会は、

2007年11月下旬の予定。詳細は後日連絡し
ます。

KISHIDAIA 91号(2007.2.28発行)

奥村賢一：雲仙山系におけるイシサワオニグモ
の垂直分布

新海 明：コガネヒメグモの飼育観察（新海栄
一氏による報告の抄録）

西野真由子：造網場所から探るジョロウグモの
産卵部位選択

新海 明：ジョロウグモ大爆発！

加藤むつみ：トゲグモの飼育記録から分かる
事：成長と寿命

新海 明：イソウロウグモ類のホストの一覧

笹岡文雄：東京 23 区におけるキシノウエタ
テグモの生息地点

DRAGLINES

高津佳史：ムツトゲイセキグモを静岡県三島市
で観察

高津佳史：4年目のジグモ

奥村賢一：ミヤグモの単眼欠失個体

笹岡文雄：他の個体の廃巢を利用したキシノウ
エトタテ

馬場友希：季節はずれのチュウガタシロカネグ
モの採集例

平野健一：福島県でニシキオニグモの採集記録
報告

<目録ドラッグラインズ>

仲條竜太・植松いのり：伊豆諸島新島のクモ II

仲條竜太：八丈小島のクモ

馬場友希：徳之島で採集したクモ

馬場友希：熊本県で採集したクモ
馬場友希：奄美大島で採集したクモ
馬場友希：四国（高知県・愛媛県）で採集したクモ
馬場友希：福岡県能古島のクモ
新海 明・谷川明男：文献による佐賀県産クモ類
目録
藤澤庸助：長野県クモ類目録（第 2 報）

入会申し込み

〒186-0002 国立市東 3-11-18-201
（有）エコシス 初芝伸吾（事務局）
Tel 042-501-2651
E-mail: hatsushiba-ecosys@h8.dion.ne.jp
会費 年 3800 円（学生 2000 円）

関西クモ研究会（会長：田中穂積）

会報「くものいと」を年 2 回発行．採集会・研究会例会などを年数回実施．

今年度の採集会は，2007 年 5 月 27 日（日）
9 月 23 日（日）いずれも京都嵐山付近を予定．

例会は，2007 年 12 月 23 日（日）に実施の
予定．詳細は後日連絡．



関西クモ研究会 2006 年度例会のひとつ

くものいと 39 号（2006.9.30 発行）
内容は，遊絲 19 号を参照のこと．

入会申し込み

〒567-8502 茨木市西安威 2-1-15
追手門学院大学生物学研究室内
関西クモ研究会
Tel 0726-41-9550（加村研）
Fax 0726-43-9432（大学教務課）
会費 年 1000 円

中部蜘蛛懇談会（代表：緒方清人）

会報「蜘蛛」を年 1 回，「まどい」を年 3 回
発行．採集会を年 2～4 回．
総会・研究会を年 1 回実施．

採集観察会は，

2007 年 5 月 20 日（日）

愛知県豊田市猿投山 担当緒方清人

集合 知立駅午前 9 時 30 分．または，猿投
山神社裏駐車場 午前 10 時 15 分．

6 月 3 日（日）

岐阜県可児市内（詳細は後日）担当須賀瑛文
9 月 16 日（日）

愛知県名古屋市八事興正寺 担当柴田良成
10 月 21 日（日）

愛知県安城市矢作川河川敷 担当杉山時雄
いずれの観察会も，参加の際には事前に担当者に
連絡のこと．

中部蜘蛛懇談会・三重クモ談話会合同合宿
7 月 21 日（土）～22 日（日）

場所 岐阜県恵那市東野保古の湖畔「恵那山荘」

担当 柴田良成

詳細は後日連絡．



中部クモ懇談会例会研究会のひとこま

総会・研究会は2007年2月9～11日のいずれか1日を予定。

蜘蛛(KUMO)39号(2006.7.30発行)

内容は、遊絲19号を参照のこと。

入会申し込み他

全般について

〒472-0022 知立市山屋敷町東山10-6

緒方清人(代表)

Tel 0566-83-4474

E-mail: neon_kiyotoi@ybb.ne.jp

入会・会費など

〒451-0066 名古屋市西区児玉1-8-24

柴田良成(会計)

Tel 052-522-1920

会費

正会員 年3000円(高校生以下1000円)

準会員 「まどい」のみ1000円

三重クモ談話会(本部:橋本理市)

会報「しのびぐも」を年1回発行。採集会・合宿・例会などを年数回実施。

採集会は

2007年6月24日(日)渡会郡渡会町サニー道路沿い一帯 玉城インター出口 午前10時

集合

7月21日(土)～22日(日)岐阜県恵那山周辺(中部蜘蛛懇談会との合同採集会)

9月22日(土)多気郡大台町旧宮川村一帯

JR三瀬谷駅 午前10時集合

11月18日(日)鳥羽市石鏡町一帯

JR鳥羽駅 午前10時集合

2008年2月3日(日)鳥羽市安乗町一帯

JR鳥羽駅 午前10時集合

本年度は、過去に未調査の地点を中心に調査します。参加希望者は必ず1週間前までに事務局に連絡ください。

総会は、2008年4月に予定。詳細は後日連絡します。

しのびぐも 33号(2006.8.10発行)

内容は、遊絲19号を参照のこと。

入会申し込み

〒515-0087 三重県松阪市萌木町7-4

貝發憲治(事務局)

Tel(Fax)0598-29-6427

会費 年2000円(2006年度から値下げとなりました)

関西クモゼミ

2007年度は10月21日(日)、12月16日(日)に行ないます。

連絡先 吉田 真

東京クモゼミ

毎月1回、第1日曜日に千葉縣市川市の加藤宅で開催。会費などなく誰でも参加できる。

連絡先 新海 明 0426-79-3728

または、加藤輝代子 047-373-3344

言いたい！聞きたい！



千葉県でのカトウツケオグモの 採集記録

新海 明

平成 18 (2006) 年 5 月の新聞に、千葉県から初記録された珍種カトウツケオグモが紹介されていた(東京蜘蛛談話会の通信 119 号の付録記事を参照のこと)。

私はこの記事を読元己良さんから見せていただいたが、貞元さん曰く「新海さんがかつて採集されていなかったか」と。私は即座に「採られています」と答えた。「でも、県別のクモリストに千葉県でのカトウツケオグモの記録は出ていませんでした」と貞元氏。しばし考えて、はたと思い当った。「そうか、採集記録を報告していなかったんだ」。

採集や観察記録はどんな些細なものでも必ず報告しようが口癖だったのに！、である。県別のクモリストでは風聞などの記録は一切掲載しない方向で編集したのだ。すでに報告されている文献のみを拠り所としたのだ。そのために千葉県でのカトウツケオグモの記録が漏れてしまった。

以下に、本種の千葉県でのかつての採集記録を報告して、反省としたい。

カトウツケオグモ 幼体 2 千葉県安房郡天津小湊町坂本(本沢林道) 1992年3月22日 金野 晋

カトウツケオグモ 雌 1 千葉県君津市折木沢(猪の川林道) 1994年9月25日 梅田泰圭



カトウツケオグモ

後者を採集した際には私も同行しており、休憩したログハウスの野外のテーブル上を徘徊していたところを採集したものだった。私の目を通してクモを梅田さんが「このクモはなんですか」と手に取ったものだった。私はそれまで一度も(その後も)カトウツケオグモに出会ったことがなく、一瞬の差で取り逃がして悔しい思いをしたので、非常に鮮明にこの時の状況を記憶していた。余談ではあるがここに記しておく。

金野さんには採集記録の照会をお願いした。記して感謝する。

チュウガタコガネグモの飼育記

藤澤庸助

2006年6月14日、長野市七二会の市場という集落で、車道脇南斜面のブッシュに造網していたチュウガタコガネグモの雌を採取した。私が長野県下で直接採集できた最初の個体であった。下伊那郡と南安曇郡松川村の地方誌に記録があるが、県北部の記録はない。ということは、たまたま幼体がここに漂着した個体かもしれないので、飼育することにした。会員諸氏は、生

態を百も承知のことだろうが、私にとっては興味津々である。

千国先生の遺品から頂戴した縦 50・横 35・奥行 28 cm, 三方金網の飼育箱へ放し, 東面と南面吹き抜けの車庫に置いた。すると, 翌日には円網が張られて, 3 方向にかくれおびまで付けられていた。

さっそく, ヒゲナガカワトビケラの成虫と, ハナカミキリ的一种を与えた。

次の日にのぞいてみると, かくれおびは完成して X 状になっていた。カミキリムシを最初に食べていて, トビケラは捕帯で縛って吊るしておき, 後に食べた。

いろいろな餌を与えてみたが, バッタ類をあまり好まないようで, 食べかけて放置していた。ナガコガネグモがバッタ類を食べている光景を多く目にするので, 嗜好が違うのだろうか。また, カワゲラの成虫も吊るしたままで, 後から与えたマメコガネなどを食べていた。結局カワゲラはその後食べた形跡がないままである。ハエ類やガ類は原形を留めないまでに噛み碎いていた。カメムシ類は与えなかったが, ATYPUS 6 号には, 日高さんと鈴木さんが採食例を報じている。

クモは日を追うごとに腹部中央がはちきれんばかりに左右にふくらてきた。

6 月 19 日朝, 網の左隅に卵のうが吊るされて



チュウガタコガネグモ

いた。薄汚れた黄緑色の野球のホームベース形で, クモは卵のう上方の箱の隅に静止していた。ぼろになった網に餌を与えてみたが, かえって逃避行動が見られた。

3 日目に網が張り替えてあり, かくれおびも X 状についていた。卵のうは前の網と同じ位置にあった。クモは再び餌を摂るようになって, やせていた腹部が次第にふくらんできた。元気もよい。クモ合戦ではコガネグモの経産婦も参加している話が納得できた。

6 月 30 日であったかその翌日であったか, 網の右隅に第 2 の卵のうが吊るされた。

7 月 12 日朝には網の中央上方に第 3 の卵のうが吊るされた。それ以降, クモはこしきには戻ったものの網の張り替えも採食もせず, 6 日目には落下, 死亡していた。

7 月 15 日朝, 待望の子グモが既に出のう。箱右上の天井にまどっていた。産卵から満 26 日である。翌日には網目から外にはい出し, 車庫の天井に移動した。そこで幾日も留まっていたので, 風の当たる場所へ簾で出してやると, 翌日には全て姿が消えていた。

7 月 28 日朝, 第 2 の卵のうから子グモが出のう。産卵から 27~28 日。早くも箱から出たので飼育箱を庭園に植えてあるレンギョウの根元に置くと, どんどん幹を伝って枝葉に登っていく。そして翌日には 1 個体も姿が認められなかった。

8 月 6 日朝, 第 3 の卵のうから子グモ出のう。産卵から 25 日目。何れの産卵も出のうも夜間に行なわれたために, 観察できずじまいに終わった。

それでも飼育目的は達せられて, 全ての卵のうに受精卵が入っていることが分かった。チュウガタコガネは偶然長野市に漂着したものではなく, この地で雄雌間の交接が行われたことが

ら、ある程度の密度で“生息”している可能性が濃くなったのである。

次に産卵数であるが、卵のう内で脱皮が1回行なわれるという前提で、卵のうを開いて脱皮殻などを数えた。こぼれてしまったふ化失敗の卵や、糸をほぐす間に飛び散った脱皮殻もあるだろうから、一位数は無意味だろうが一応結果を書いておく。

第1の卵のう：脱皮殻；723，発生途上で死亡；51，未受精卵らしき卵；25+ ，合計799 + 。ふ化率90%未満。その他卵黄のかけらのようなものが多数散乱。

第2の卵のう：脱皮殻；914，発生途上で死亡；5，未受精卵らしき卵や卵黄のかけらのようなもの；0，ほかに捕帯のような糸に包まれた子グモ；2，合計921。ふ化率99%またはそれ以下。他にオニグモ属一種の子グモの死骸；1。

第3の卵のう：脱皮殻；620，発生途上で死亡したもの；4，未受精卵らしき卵；3，合計627。ふ化率99%またはそれ以下。他にオニグモ属一種の子グモの死骸4，うち1個体は卵に食らいついた状態で絶命していた。

初回の産卵数は、卵黄らしきかけらが未受精卵であったならばかなり増えるだろう。採集時や環境の変化などによるストレスによって、体内で産卵と輸精などのバランスが崩れていたのだろうか。それでも一回の産卵数は、ATYPUS 23/24号にある故中平さんが報じた300個よりはるかに多い。南の地方とは生態が微妙に違うのだろうか。

それにしてもオニグモ属の幼体はいつ入ったのだろう。結局はミイラになってしまったところをみると、卵のう内は本来の生活環境と程遠い場所だったに違いない。

これで飼育の顛末は終わる。困ったことに、子グモをわが家で放したので、翌年真田町や近

隣市町村でチュウガタコガネが見つかって、自然分布とはいえない事態を作ってしまった。わずかながら罪悪感が頭をよぎるたびに、この子グモたちが風任せに分散し、適地に漂着した個体だけが成長し成熟にいたるとするならば、遠からず自然状態に戻るだろうと言い訳を考えている。 完



「日本のクモ」

新海栄一著，2006年，文一総合出版(東京)，335 pp. ISBN 4-8299-0174-8 定価 本体4,200円+税

著者の新海栄一氏はクモの生態写真の第一人者であり、また、クモの網型の研究でもよく知られている。新海氏は今までに、数々のクモに関する書物を手がけているが、そのなかに2冊のハンディ図鑑がある(新海・高野1984；新海・高野1987)。この2冊は一般の人たちにも使いやすい実用的なクモのハンドブックとして高い評価を得てきた。今回出版された本書は、これら2冊の内容を質、量ともに大幅に充実させたものと言えるだろう。日本産のクモが565種も扱われているため、ボリュームは335ページにおよび、従来の2冊に比べるとかなり厚重なものになっている。しかし、リュックサックにつめて携行するのは可能なサイズであり、卓上ではもちろん、野外でも大いに活用できると思われる。

本書は基本的には、各種のクモの生態写真と



解説によって構成されている．生殖器官の図は掲載されていないため，グループによっては正確な種の同定には利用できないが，日本のクモを概観するにはすぐれた書物である．専門用語の解説や科ごとの特徴についての解説も整っており，初めてクモに触れる読者にとっても良い参考書となるであろう．とくに，網の基本形態に関する解説は，長年にわたってこの分野を研究してきた筆者ならではのものである．種ごとの解説では，体長，出現期，住居，網型，狩獵行動，分布の6つの項目が簡潔に記され，同時に，生息環境や生態的特徴についての詳しい記述がある．また，クモの分布がその地域の気温と密接に関連していることに着目しつつ，本州におけるクモの分布パターンを8タイプに分けて明示している点はユニークであり，かつ，有用である．

ところで，本書ではクモの和名について，いくつかの提言がなされている．個々の和名の安定性を維持することと全体のなかで名称どうしの整合性を図ることの間には悩ましい問題が生

じることがある．じつは，私自身，和名について混乱させたことがあった．ワシグモ科のマエトビケムリグモの属を変更した際に，その和名を変えたのだが (Kamura 1992)，その後，今まで長く用いられてきた和名を変えることは不適切であったと考え直して，元の名称を使うことをあらためて提案したのである (加村 1995)．このクモについては，本書では元の和名が用いられており，私の不手際による改名は忘れ去られていくと思われるので，ありがたい．しかし一方で，今回の本書におけるいくつかの提案には，別の研究者の見解とは異なるものが含まれているので，今後ある程度の混乱を覚悟しなければならないだろう．

和名については，さらにもう少し指摘しておきたい．私が手がけているグループばかりを引き合いに出してまことに恐縮なのだが，ワシグモ科の *Sernokorba* (上記のマエトビケムリグモが属している属) と *Sanitubius*，ネコグモ科の *Otacilia* についてはそれぞれ，ノコバトンビグモ属，ムモントンビグモ属，ナンゴクウラシマグモ属という和名がすでに提案されている (Kamura 1992, 2001, 2004)．したがって，本書においてこれら3属に新たに命名されている点については不要な措置だったのではないかと考える．

また，本書では分類学上の大きな問題も扱われている．それは，ヤチグモ科，ナゲナワグモ科，ジョロウグモ科という3つの科の提唱である．この扱いの妥当性に関しては，私は明確な見解を持たないので論評を控えるが，ただ，このような分類学的に重要な事項を一般向けの書物で初めて提示することには違和感を覚える．これについては，世界のどの研究者でも容易に入手でき，かつ，容易に読むことができる形で発表してもらいたかったと強く思う．なお，

Platnick (2007) によれば, ジョロウグモ科 Nephilidae はすでに別の研究者によって提唱されている。

さらにもうひとつ, 分類学的見解として本書のいわば特質となっているのが, 篩板類をひとつのグループとみなしている点である。篩板類を単系統群とは認めないという態度が世界のクモ学のなかでは主流となっている現状において, 筆者の主張はある種独特なものであろう。この評価については読者諸氏に委ねるとして, この篩板類をめぐる議論が, 少なくとも日本においては, 今後も継続されなければならない状況にあるということを指摘するにとどめる。

最後に, 本書の価値のひとつは, それぞれのクモについての簡潔で的確な解説とともに, その写真にあることは言うまでもない。500 種を超えるクモの生態写真を準備するにあたっては, 長年にわたる並々ならぬ努力が必要だったであろう。これには感服する以外ない。使用されている写真には, 他の研究者の手によるものも含まれているが, これも筆者の持つ強力な人的ネットワークの賜物と言ってよいだろう。多くの美しい写真が本書の価値(見るだけで楽しいクモの写真集として, また, 同定に役立つクモの写真図鑑として)を高めていることは間違いない。

以上, いくつかの注文も述べたけれども, 本書が日本のクモ学界におけるひとつの大きな業績であることはたしかであろう。クモ好きの人々だけでなく, 広く自然や生き物に関わる多くの人々に本書が読まれて, さらにクモに興味を持つ人が増えることを期待したい。

文献

Kamura, T. 1992. Two new genera of the family Gnaphosidae (Araneae) from

Japan. Acta Arachnol., 41: 119-132.

加村隆英 1995 *Sernokorba pallidipatellis* の和名について. Acta Arachnol., 44: 203.

Kamura, T. 2001. A new genus *Sanitubius* and a revived genus *Kishidaia* of the family Gnaphosidae (Araneae). Acta Arachnol., 50: 193-200.

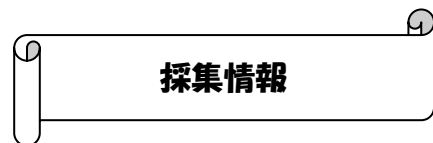
Kamura, T. 2004. Spiders of the genus *Otacilia* (Araneae: Corinnidae) from Japan. Acta Arachnol., 53: 87-92.

Platnick, N. I. 2007. The World Spider Catalog, Version 7.5. インターネット: <<http://research.amnh.org/entomology/spiders/catalog/index.html>>.

新海栄一・高野伸二 1984. フィールド図鑑クモ. 東海大学出版会(東京), 204 pp.

新海栄一・高野伸二 1987. クモ基本 50. 森林書房(東京), 128 pp.

(加村隆英)



採集情報

日本各地で採集された, 稀産種や分布上の重要種などについての情報を掲載する。これを読み, 「私もこんな種類を採集しているぞ」という方はその情報を是非お寄せいただきたい。

ヒゲナガツヤグモ

神奈川県小田原市国府津駅 2007年4月27日 1 2 花井正実採集 池田博明・谷川明男同定

シロゴミグモ

兵庫県豊岡市竹野町 2005年8月25日 1



ヒゲナガツヤグモ

クモ学会観察会参加者 谷川明男同定
兵庫県姫路市広嶺山 2007年5月3日 1
榎元敏也採集 榎元敏也・谷川明男同定

オノゴミグモ

宮城県登米市迫町 2007年4月30日 1幼体
高田 D.まゆら採集 馬場友希・谷川明男同定



シロゴミグモ

ツシマトリノフンダマシ

鹿児島県十島村宝島 2007年5月4日 1幼体
山崎一憲採集 谷川明男同定
埼玉県飯能市天覧山麓 2007年5月12日
1個体 吉野光代採集 新井浩司同定

カトウツケオグモ

滋賀県大津市龍谷の森 2007年4月21日
2幼体 小池直樹採集同定



ツシマトリノフンダマシ

クロガケジグモ

徳島県徳島市眉山 2006年11月16日 幼体
多数確認 2006年12月20日 1採集
幼体多数確認 馬場 G.友希採集同定

シラホシコゲチャハエトリ

北九州市小倉南区平尾台 2007年4月15日
馬場三男採集 馬場 G.友希同定



シラホシコゲチャハエトリ

ワクドツキジグモ

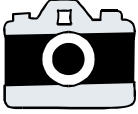
福岡県八女郡立花町 2006年9月20日 1幼体 ()
山崎茂幸採集同定

シマササグモ

福岡県八女郡立花町 2006年9月20日 1
山崎茂幸採集同定

ヒトオビトンビグモ

福岡県八女郡立花町 2006年9月19日 1
亜成体() 山崎茂幸採集同定
(新海 明・谷川明男集約)



ギャラリー



『ほんとにヒトエだ』

吉田 真さんが飼育されていたヒトエグモの雄である。私は、クモ歴 31 年目にして初めて生きているヒトエグモを見た。このクモの体内はどのようにになっているのだろう。いったいどんな虫をどのようにして捕食しているのだろう。クモの腹部は餌を食べると膨らむが、はたしてこのクモの腹部はそのようなことになるのだろうか。絶食に強そうに見えるが、どのくらい耐えられるのだろう。このクモはやはり大陸から人や仏像とともにやってきたのだろうか。人家内に棲んでいるのに、なぜ日本国内の分布域は狭いのだろう。人や物とともに分布域を広めてもよさそうなのに、ほんとに不思議だらけのクモである。

(谷川明男)

冊子のご案内

「日本産コガネグモ科ジョロウグモ科アシナガグモ科のクモ類同定の手引き」と題する冊子が日本蜘蛛学会から発行されました。この小冊子は、A4 版カラー35 + 白黒 87 = 122 ページで、日本産として記録されたクモのうち、コガネグモ科 122 種、ジョロウグモ科 2 種、アシナガグモ科 44 種を扱っています。

カラーページには、各種の雌雄、網、色彩変異などの写真を撮影できた範囲でなるべくたくさん掲載し、白黒ページには各科、属、種についての簡単な説明と雄の触肢や外雌器など同定のキーとなる部分の形態図を掲載しました。カラーページと白黒ページのサンプルは次の URL でご覧ください。

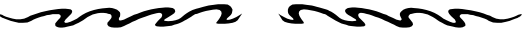
<http://www.asahi-net.or.jp/~dp7a-tnkw/sample.pdf>

価格は本冊 3500 円 + 送料 290 円 = 3790 円です。

ご購入くださる方はメールまたは郵便でご連絡ください。折り返し振込先などをご連絡いたします。

〒113-8657 東京都文京区弥生 1-1-1
東京大学農学部生物多様性 谷川明男
dp7a-tnkw@j.asahi-net.or.jp

(谷川明男)



編集後記

1997 年 8 月に行なわれた三重県四日市でのクモ学会大会で遊絲の発行が決まった。

あれから 10 年が経過して毎年春秋 2 回ずつ合計 20 号の遊絲が誕生した。なんとか今まで継続できたのは、さまざまな情報を投稿していただいた会員の皆さんのお陰と感謝

したい．これからも，クモに関するさまざまな観察や採集記録，そして「想い」を投稿していただけたら幸いである．

連休を利用して，谷川さんと九州へキムラグモとキシノウエトタテグモの探蛛行に出掛けた．ひたすら崖地を舐めるように見続けたせいで，夜になり目を閉じるとキムラやトタテの戸蓋がチラチラと浮かぶという「後遺症」が残ってしまった．いよいよクモの観察や採集のシーズン到来だ．

また，5月中旬に新潟県でのイソコモリ調査のついでに「蜘蛛池集落」と「蜘蛛興野」を訪れてきた．

(新海 明)

遊絲原稿送付先

〒192-0352 八王子市大塚 274-29-603

新海 明まで

E-mail では dp7a-tnkw@j.asahi-net.or.jp (谷川明男) まで

発行は，年2回(5月，11月)の予定．締切は発行月の前月末日です．



バス停 蜘蛛興野(くもでこうや)



蜘蛛池集落排水処理施設の看板と蜘蛛池

日本蜘蛛学会

入退会は

庶務幹事

〒520-0062 大津市大谷町-6 D-6

榎元敏也

E-mail: tmastume@pop21.cdn.ne.jp

会費の問い合わせ及び住所変更は

会計幹事

〒187-0002 東京都昭島市東 3-11-18 203

(有)エコシス 初芝健吾

E-mail: hatsushiba-ecosys@h8.dion.ne.jp

Tel 042-501-2651

年会費 正会員 7000 円(学生は 5000 円)

郵便振替口座 00970-3-46745

遊絲 第 20 号

2007 年 5 月 25 日発行

編集者 新海 明，谷川明男，池田博明

発行者 日本蜘蛛学会 会長 鶴崎展巨